

平成 27 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価結果について

平成 28 年 2 月 8 日
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
研究開発評価部会

科学技術振興調整費により実施したプロジェクトについては、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会の定める「平成 27 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」に基づき、文部科学省より事務委託を受けている国立研究開発法人科学技術振興機構が、外部有識者からなる評価作業部会を設置・運営し、事後評価を実施した。

平成 27 年度評価対象プロジェクトについては、平成 27 年 9 月～10 月に各評価作業部会による事後評価が行われた。

今般、その評価結果を取りまとめたので報告する。

1. はじめに

平成 27 年度の事後評価については、総合科学技術・イノベーション会議の定める「国の研究開発評価に関する大綱的指針」、「科学技術戦略推進費に関する基本方針」、また、文部科学省が定めた「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」等を十分に踏まえた評価を実施するため、平成 27 年 6 月 19 日に開催された科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会において、「平成 27 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」を決定したところである。

当該事項に基づき、評価対象プロジェクトの専門分野・領域等を勘案して、当該分野・領域の専門家及び有識者から構成される3つの評価作業部会を設置し、これらの評価作業部会において「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」、「イノベーション創出若手研究人材養成」、「女性研究者養成システム改革加速」の3プログラムにより実施した19プロジェクトについて、書面評価・ヒアリング評価を行った。

また、プログラムオフィサー（PO）が主査補佐として評価作業部会に参画し、評価作業部会運営に際して主査を補佐するとともに、プロジェクト管理等で把握した状況等の説明を行った。

2. 平成 27 年度評価の実施経緯

各評価作業部会の開催経緯は以下のとおりである。

評価作業部会	評価作業部会開催内容	開催日
若手研究者の自立的研究環境整備促進評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・若手研究者の自立的研究環境整備促進 6プロジェクト	9/15
イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・イノベーション創出若手研究人材養成 6プロジェクト	10/19
女性研究者支援システム改革評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・女性研究者養成システム改革加速 7プロジェクト	9/30

3. 評価結果概要

プログラムごとのプロジェクト評価結果の概要を以下に述べる（詳細は別紙及び資料 2-2 参照）。

- 総合評価
- S. 所期の計画を超えた取組が行われている
 - A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 - B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 - C. 総じて所期の計画を下回る取組である

プログラム名	事後評価				
	総数	総合評価			
		S評価	A評価	B評価	C評価
若手研究者の自立的研究環境整備促進	6	0	5	1	0
イノベーション創出若手研究人材養成	6	1	3	2	0
女性研究者養成システム改革加速	7	0	7	0	0
計（19プロジェクト）	19	1	15	3	0

4. 評価結果の取扱

評価結果については、本部会での評価決定後、実施機関に通知し、評価コメントを踏まえた各機関における自主的な取組を促す。併せて、文部科学省のホームページを通じて公表するとともに、総合科学技術・イノベーション会議への報告対象となった場合には、同会議への報告を行う。

なお、評価結果のとりまとめに当たっては、評価を実施する上で評価作業部会委員等から寄せられた意見・コメントを適切に反映させるとともに、被評価者に意見提出の機会を与え、評価プロセスにおける評価者と被評価者のコミュニケーションの確保を図った。

評価結果概要

1. プログラム毎の評価結果の概要を以下に述べる。
 なお、本年度のプロジェクト評価基準については、次のとおり。

- 【総合評価】 S. 所期の計画を超えた取組が行われている
 A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 C. 総じて所期の計画を下回る取組である

(1) 若手研究者の自立的な研究環境整備促進

平成 26 年度に支援が終了した 6 プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち、5 プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの 1 プロジェクトについては人材養成システム改革が十分ではなく、目標達成度については所期の目標を達成したとは言えず、また、プロジェクト終了後に向けた取組が十分ではないことにより総合評価は「B」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	0	5	1	0	6

(参考)

- ◇制度概要：若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点をめざす研究機関において、テニュアトラック制（公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が厳正な審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み。）に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る。
- ◇充 当 額：1 プロジェクト当たり 2 億／年を上限
- ◇実施期間：原則 5 年間（3 年目に中間評価を実施）

(2) イノベーション創出若手研究人材養成

平成 26 年度に支援が終了した 6 プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち 1 プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、3 プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの 2 プロジェクトについては、実践プログラムの開発・運用、実施体制の構築が十分ではなく、目標達成度については所期の目標を達成したとは言えないこと等により総合評価は「B」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	1	3	2	0	6

(参考)

◇制度概要：イノベーション創出の中核となる若手研究人材（博士後期課程の学生や博士号取得後5年間程度までの研究者）が、狭い学問分野の専門能力だけでなく、国際的な幅広い視野や産業界などの実社会のニーズを踏まえた発想を身に付けるシステムを機関として構築する取組に対し支援する。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり7千万/年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

（3）女性研究者養成システム改革加速

平成26年度に支援を終了した7プロジェクトについて事後評価を実施した。全7プロジェクトについて、所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	0	7	0	0	7

(参考)

◇制度概要：多様な人材の養成・確保及び男女共同参画推進の観点から、特に女性研究者の採用割合等が低い分野である、理学系・工学系・農学系の研究を行う優れた女性研究者の採用の増加と養成を加速する必要がある。

本プログラムを実施し、機関におけるシステム改革に効果的な分野・規模で当該女性研究者の採用を行うことにより、人材の多様化、研究の活性化及び男女共同参画意識の醸成、さらには、機関として本来取り組まなければならない柔軟な組織編成や環境整備等を同時に促進し、総合的なシステム改革の構築を目指す。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり8千万円/年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

2. プロジェクト評価結果一覧

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」（事後評価）

若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 国際公募・選考・業績評価	III. 人材養成システム改革（上記II以外の制度設計に基づく実施内容・実績）	IV. 人材養成システム改革（上記II以外の制度設計に対するマネジメント）	V. 実施期間終了後における取組	VI. 中間評価の反映
若手先端科学研究者の研究環境改革	群馬大学	平塚 浩士	A	a	a	a	a	a	a
富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点	富山大学	遠藤 俊郎	A	a	a	a	a	a	a
国際サステナブル科学リーダー育成システム	広島大学	越智 光夫	B	b	a	b	a	b	a
イノベティブマリントテクノロジー研究者育成	高知大学	脇口 宏	A	a	a	a	a	a	a
国際的研究者を育て得るメンター研究者養成	東海大学	山田 清志	A	a	a	a	a	b	a
生命科学の新分野創造若手育成プログラム	情報・システム研究機構	北川 源四郎	A	s	s	a	a	a	a

「イノベーション創出若手研究人材養成」（事後評価）

イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. イノベーション人材養成システム改革状況	III. 実践プログラムの開発・運用状況	IV. 実施体制	V. 今後の進め方
グローバルヘルス政策人材養成講座	東京大学	五神 真	S	s	s	s	s	a
産学連携による博士人材のキャリア形成教育	金沢大学	山崎 光悦	A	b	a	a	a	a
産業牽引型イノベーション創出若手人材養成	岐阜大学	森脇 久隆	B	b	a	b	b	a
イノベータ養成のためのサンドイッチ教育	三重大学	駒田 美弘	A	b	a	a	a	a
生命医学イノベーション創出リーダー養成	神戸大学	武田 廣	B	b	b	b	b	b
産学連携コーポ型高度人材育成プログラム	立命館大学	吉田 美喜夫	A	b	a	a	a	a

「女性研究者養成システム改革加速」（事後評価）

女性研究者支援システム改革評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 女性研究者支援システム改革	III. 取組の内容	IV. 実施体制	V. 今後の進め方
理系女性教員キャリア支援プログラム	千葉大学	徳久 剛史	A	b	a	a	a	a
知の頂点に向かって加速！東大プラン	東京大学	五神 真	A	b	a	a	a	a
名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム	名古屋大学	松尾 清一	A	a	a	a	a	a
レボリューション！女性教員養成神戸スタイル	神戸大学	武田 廣	A	a	a	a	a	s
伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点	奈良女子大学	今岡 春樹	A	a	a	a	a	a
広大システム改革による女性研究者活躍促進	広島大学	越智 光夫	A	a	a	a	a	a
バッファリングによる女性研究者養成の加速	熊本大学	原田 信志	A	a	a	a	a	a